

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0793100090		
法人名	福島さくら農業協同組合		
事業所名	は～とらいふ三春		
所在地	福島県田村郡三春町大字担橋140-3		
自己評価作成日	平成30年12月7日	評価結果市町村受理日	令和元年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成31年1月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>1. 食事の質が高く、献立には利用者の希望を取り入れながらバリエーション豊富です。利用者にご下ごしらえや配膳、後片付けを手伝ってもらいながら、また、職員も一緒に食事をして楽しい食事タイムになっています。</p> <p>2. 「地域密着」をモットーに地域交流を大事にしています。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>1. 自治会に加入し地域の一人として、地域行事や奉仕作業に参加したり、事業所行事に地域住民を招待したり、多くのボランティアを受け入れる等、地域との交流を大切にしている。</p> <p>2. 運営推進会議を定期的に開催し、事業所の活動状況やヒヤリハット、自己評価結果等を報告し、委員から職場環境の改善や防災訓練のあり方等、多くの意見等をもらい運営に活かしている。また、防災訓練等にも参加してもらっている。</p> <p>3. 日頃より利用者が食事に関する作業への関わりが多く、下処理から調理、盛り付け、後片付け等のほか、近隣住民と数多く行事食やおはぎなどの季節の献立を一緒に作ったり、利用者が作り方を教える等、張り合いや楽しみとなるよう支援している。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールや玄関に掲げてあるが、共有する機会は作れていない。	事業開始時作成した理念を昨年見直しをして、新しい理念を作成して事業所内に掲示しているが、意識付けをし共有するための話し合い等はしていない。	理念は、事業所の運営や介護サービスを提供する上でのより所となるものであることから、職員間で話し合い、実践するための意識付けを行ってほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に加入し回覧板の受け回しをしたり、郵便局の草むしり、道路のゴミ拾い、小学校行事への参加、保育所との交流会、地域祭などに参加し交流を図っている。また、事業所で行事がある時は、回覧で案内を回してもらったり、広報誌も毎月回覧でまわしてもらっている。	地域の自治会に加入し、祭りや清掃・除草作業等に参加している。また、小学校の行事に参加したり、保育園との相互訪問を行って交流を図ったり、多くのボランティアや慰問を受け入れながら、地域の方々との交流が継続できるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で入所している方の認知症状について説明したり、どのように支援、対応しているかを説明しているが、それ以外の地域の人には伝えられていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	そのようにしている。ひやりはっとのみならず、利用者の生活状況等を説明し理解してもらうことで、色々なアドバイスや意見をいただくことができ、その内容については朝礼等で職員に報告しサービス向上に生かせるような改善につなげるようにしている。	運営推進会議は定期的開催されている。会議では運営状況や利用者状況、事故・ヒヤリハットや防災に対する取り組み状況等を報告し、事故報告の在り方や職員の職場環境等について意見や提言があり、運営に反映するよう取り組んでいる。また、防災訓練にも参加してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の入所者移動報告書、待機者情報の提出。保健センターの保健師さんやグループ長さん、包括支援センターの職員と連絡を取り合い、実情の報告や相談をして協力してもらっている。	市の担当職員とは、利用者状況や待機者情報等を報告する中で協力関係を築いている。また、運営推進会議や地域密着型サービス事業所との連絡協議会等で情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に会議を行い、日々の行動や支援内容で身体拘束にあたるものはないか検証している。玄関は施錠しないで、音センサーを設置している。	身体拘束廃止委員会が中心となり、定期的に委員会や研修会を開催している。また、職員会議の中ではスピーチロック等目に見えない抑制的な言葉がないか等も確認しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が軸となり、職員間で注意し合える環境作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会に参加したが、内容を職員に周知しなかった。職員が学ぶ機会はまだ作れていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、面会や受診時に家族に聞くようにしている。外部者が来た時、一部の利用者の訴えを聞いてもらうことがある。	日常生活の中で利用者の意見や要望を聞き把握するよう努めている。また、家族からは運営推進会議や面会時、家族アンケートを実施しながら意見や要望を把握し、出された意見・要望を運営に反映するよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員の意見を聞いたり、直接聞くこともあり、できるだけ反映させるようにしている。年2回、個人面談を行っている。	管理者は、職員会議や年2回職員との個別面談を実施して、意見や要望を聞いている。また、日頃の業務の中でも、職員に声掛けをしながら、意見や要望の把握に努め、業務の改善等に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場全体で環境整備には努めているが、条件となってくると難しいものがあるのが現状である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、ケアマネ、看護師、介護職がそれぞれの立場で必要な研修に参加できるように研修計画を立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年数回の福祉職員全体会議で勉強会を開催し、サービスの質の向上につなげている。他、年1回交流会が開催されている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネを中心に本人の話しや思い、要望も聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の意向や要望を聞いたり、入所後の関わり等を話ながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時として職員が利用者を頼って仕事を頼んだり、わからないことを聞いたり相談したりすることがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況報告と広報誌を送り様子や身体状況を伝えたり、対応等で困った時は家族に相談する場合もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本、主治医は変えない。 入所以前からのかかりつけの美容室を継続利用したり、暮らしていた地域にドライブに出かけたり、家の様子を見に行ったりしている。	家族の協力も頂きながら、自宅への外泊や様子伺い、馴染みの美容室や買い物、近隣へのドライブ等に出かけ、利用者がこれまで築いてきた関係が継続できるよう支援している。また、家族等が来所された時には、ゆっくり会話ができるような環境作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとり一人の性格や利用者さん同士の関係を把握して、席の配置に配慮したり会話の仲立ちに入ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時はそのように努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の会話の中から希望や意向を把握できるように努めている。困難な時はミーティング等で話し合う。	利用者との日頃の会話の中から、思いや意向の把握に努めている。また、困難な場合には、日常生活の関わりの中で、動作や表情から本人の意向を汲み取ったり、家族からの情報を得ながら、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネのアセスメント情報や申し送りをともに把握に努めている。 会話の中で、利用者本人から聞けることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼、朝夕の申し送り、申し送り簿、日々の記録を活用している。毎日のバイタル測定、変化が見られるときのバイタルや様子観察などで体調の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を通して行うようにしている。	入居後1ヶ月、その後3ヶ月毎のモニタリングと介護計画の見直しを基本としている。サービス提供記録や本人・家族の意見を聞きながら、介護計画を作成している。また、利用者の状態変化に応じた計画の見直しと現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をや申し送り簿等で情報を共有しながら活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じ、できるだけ柔軟な対応を心がけ支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来ていただいたり、近隣の方が都合のいい時に来て話相手になってくれることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、かかりつけ医はこれまでの経緯、家族、本人の希望を尊重し対応している。身体変化があったり本人から受診の希望があれば、家族に相談しながら受診の対応をおこなっている。	本人、家族の意向に沿ったかかりつけ医の受診を支援している。また、月1回協力医による訪問診療も行われている。受診の結果は、その都度報告しあったり、毎月家族宛に作成しているお便りを活用し伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は身体変化を記録、申し送りをし早目の対応を心がけ、看護師の意見を聞きながら受診や処置等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院調整ルールを活用しながら関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末期ケア対応を策定し家族等に説明し渡している。また、担当者会議の時、主治医からも話をしてもらうようにしている。	入居時に看取りに関する指針を利用者・家族に説明し同意を得ている。看取りに当たっては、主治医や看護師、薬剤師等に参加してもらい、看取り計画書を作成し支援している。また、看取り介護に係る研修に参加し、職員会議の中で報告し共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り、すぐ見れるところに掲げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団や近隣住民、家族の協力のもと避難訓練を実施したり、運営推進会議の後に実施し委員のかたにみてもらったりした。夜間や災害(風水害等)を想定した訓練は実施できなかった。	地域の消防団と住民の参加を得て、日中の火災を想定した訓練を1回実施している。地域との協力体制が構築されており、水や食料、ヘルメット等の非常用品が備蓄されている。	地震や水害等の災害時に利用者を迅速、的確に避難誘導できるよう、昼夜を問わない訓練を数多く実施してほしい。また、消防署の立ち会いを得た訓練も実施してほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人格の尊重には十分気をつけてはいるが、不適切な言動が見受けられた場合は都度注意したり、職員会議や朝礼等で周知したり、職員間で声かけ合う時もある。	利用者に対してふさわしくない言葉遣い等を、職員会議の中で話し合い、尊厳やマナーを重んじた支援を行っている。不適切の言葉等があった時はその都度注意しあっている。また、接遇マナーの研修会に参加させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から何か訴えがあった場合は傾聴し、利用者が言いやすい環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞きたいが、中々そういう機会がなかった。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアの促しをしたり、化粧品が無くなると買いに行き支援している。理美容室行きたい希望があれば対応している。更衣は本人の意向を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理の下処理、調理、盛り付け、後片付け等、利用者を手伝ってもらっている。利用者とは職員は同じテーブルで食事をしている。	日々の会話の中で把握した嗜好や希望を献立に反映させている。下処理や調理、盛り付けや後片付け等を利用者と一緒に行っている。食事中は笑顔が絶えず、昔から伝わる行事食から思い出話に花が咲くこともある。季節毎の行事食を提供したり、外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表で一日の摂取量を確認し、足りない時は随時提供している。食事内容については個々に合わせ提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを促し実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はほとんどの利用者がトイレで排泄を行っている。また、排泄のパターンを把握し、夜間帯や日中に使用するおむつについては都度、どうのが合うのかを試しながら検討している。	利用者の排泄記録や利用者自身の仕草等から、職員が察して声掛け誘導し、トイレでの自立した排泄ができるよう支援している。また、排泄用品の使用方法についても、その都度検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分の提供、一日おきに牛乳の提供を行っている。また、利用者自身が便秘予防のために食べているものを定期的に準備している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が入浴日、時間を割り振りしているの、ひとり一人の希望には沿っていない。	週2回の入浴を目標に、入浴日や時間等はほぼ決まっているが、利用者の意向等を確認しながら支援している。お湯は一人毎に入れ替えを行っている。また、りんご湯やゆず湯等の季節感を楽しむ支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほぼ、本人の意向や生活習慣に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬について説明を必要時に都度行っている。また、薬状をファイルで確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割やできる事、趣味や好きなことが続けられるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の計画を定期的に立てたり、急遽、ドライブに出かけたりする時もある。家族が誘ってくれる場合もある。地域の人々の協力を得て・・・までは行えていない。	事業所が町中にあることから、郵便局や小売店等に歩いて出かけている。また、職員と自宅を訪ねたり、家族や知人と一緒に知人宅を訪ねたり、外食を楽しむ利用者もいる。外出計画の中で、近隣の公園や名所地等にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	そのように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室で携帯電話を使用したり、手紙を書いたり、事務所の電話でかけたり等、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音、日差しや照明、温度や湿度など利用者に聞きながら、こまめに調整している。ホールには季節の行事に合わせ飾りつけをしたり、季節の花を飾っている。	天窓、腰窓から差し込む自然光が心地よく、目に優しい作りになっている。窓際のソファで寛ぐこともできる。伝言を伝えるホワイトボードは、座位の目線に合わせて低くしてあり誰でも見られる。季節を伝える壁飾りが空間に温もりを加えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が居室を行った来たり、日当たりが良い廊下の角に椅子をおいて読書や日向ぼっこをしたり、炬燵やソファで自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	家具や寝具、日用品など使い慣れたものを持ってきていただくようにしている。また、家族写真を飾ったり位牌なども持ってきている。居室の様態替えもできる利用者は自由に行っている。	テレビやタンス、衣装ケース等使い慣れた物を持ち込んで生活している。家族の写真やカレンダー等を壁に貼ったり、紙位牌に陰膳を供えたりする等、利用者がその人らしい生活を続けられるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールに洗濯物を干すスペースや食器棚を置いて職員と一緒にやったり、自由にお茶が入られる場所を作っている。		